

(参考) さくらサイエンスプログラム 募集枠組みの概要

	さくら招へいプログラム	さくらオンラインプログラム
目的	産学官の緊密な連携により、海外の国・地域の優秀な青少年に日本の先端的な科学技術に触れる機会を提供すること（科学技術交流）を通して、科学技術イノベーションに貢献しうる優秀な人材の養成・確保及び継続的交流、日本の教育研究機関のグローバル化、日本と海外の国・地域との友好関係の強化、に貢献し、ひいては、日本及び世界の科学技術・イノベーションの発展に寄与する。	
対象国・地域	原則としてすべての国・地域	
分野・テーマ	自然科学分野 および 経済社会の諸課題を理解するための取組みや生活の向上等をテーマとする人文・社会科学分野	
主たる招へい者・参加者	高校生、高等専門学校生、大学生、大学院生、ポストドクター、教員、公的機関で科学技術に関連する業務に従事する者 ・ 40 歳以下 ・ 初来日（大学生以上の場合は大学入学以降に初来日）	・ 原則 40 歳以下 ・ 来日経験は問わない
内容、日数	A. 科学技術体験コース 原則 7 日以内 B. 共同研究活動コース 3 週間以内 C. 科学技術研修コース 10 日以内 実招へい前後に交流の充実を図るためのオンライン交流の実施が可能 コロナにより中止となる場合は全体をオンライン交流に変更可（右列のプログラムとは別の枠組み） コロナにより中止となる場合であっても 2022 年度への延期は不可	継続的・シリーズ的に 5 日以上科学技術交流を実施。 個人単位で参加を募るイベント（個人を対象とした大学説明会等）や実招へいの実施の事前説明や事後フォローを目的とするもの等は対象外。
人数	単一機関：10 名以下 複数機関：（A）15 名以下、（B）10 名以下、（C）25 名以下	10 名以上
主な支援費用	・ 渡航費（主に航空券代。受入れ機関が企業の場合は渡航費のみ支援） ・ 招へい者および協力者の日本国内の旅費（宿泊費、交通費） ・ 消耗品、資料作成費、オンライン交流ツールの使用料（利用月） ・ 外部有識者や TA の謝金 ・ 通訳費用（高校生、高専生のみ） 総額に上限はないが、日本国内の費用は 1 人・1 日あたり原則 2 万以下 の総額は原則 A コース 2 万円、B、C コース 5 万以下。追加費用申請により上限を超えて計上可	・ 協力者の旅費、外部有識者や TA の謝金 ・ 消耗品、資料作成費、オンライン交流ツールの使用料（利用月） ・ 高度な撮影技術を要する場合の外注費、人件費 ・ 通訳費用 1 件あたり 100 万円未満 汎用性が高い映像・音声機器等は支援対象外
費用以外の対応	・ 査証申請支援（申請書類の簡略化、費用免除）、旅行保険の付保 ・ 日本科学未来館入館料（常設展）の免除 ・ 修了証の発行、さくらサイエンスクラブ（SSC）への加入 新規対象国・地域については調整中のため、支援の可否を別途案内。免除対象でない場合は、査証手数料について、1 人あたり 3,000 円を上限として支援金に計上可能	・ 修了証の発行、さくらサイエンスクラブ（SSC）への加入
終了報告	受入れ・実施機関実施報告書（実施状況、費用、実施写真）、実施主担当者終了報告書、招へい・参加者修了報告書（アンケート）	
追跡調査	受入れ・実施機関への交流実施後来日状況調査（実施後 5 年間）、招へい者・参加者本人に対する実施後の来日状況調査（SSC 経由）	
選考	選考委員会	